

High tide



～中原 司 ガラス作品展示～

2024. 9/25(水) → 11/11(月)

 妖精の森ガラス美術館
Fairywood Glass Museum


森の芸術祭
PICK UP
PROGRAM

High tide ～中原 司 ガラス作品展示～

妖精の森ガラス美術館2階企画展示室での秋期展示はガラス作家中原 司（なかはらつかさ）さんの造形作品を展示いたします。

中原さんは倉敷芸術科学大学ガラスコースを卒業され、岡山県倉敷市真備町に工房を構えて制作活動をされています。真備町は2018年の西日本豪雨で河川の堤防が決壊し、水没した地域です。中原さんの工房も屋根まで水に浸かり、甚大な被害を受けています。今展では完成間近でありながら豪雨被害で破損してしまった造形作品1点を修復して展示いたします。

中原さんは板ガラスを重ねて接着し、研磨して作品に仕上げていく作風で、彫刻や照明作品など幅広く制作されています。今回展示していただく作品「High tide」はガラスと金属（鉄、ステンレス）の複合作品で、ガラス部分はまるで水のゆらめきを想起するような曲面になっています。板ガラスの青みがかった色も作品の一要素として象徴的な意味合いを持っているように感じます。

現在の真備町は決壊した河川の治水工事も完了し、日常を取り戻しつつあるとは感じていますが、完全な復興はまだ道半ばではないかと思えます。今展が西日本豪雨の被害を風化させないという決意と、そこから学んだ教訓を先の未来に繋げていきたいという想いを再確認できる一助になれば幸いです。



なかはら つかさ
中原 司
1976 津山市出身
1999 倉敷芸術科学大学ガラスコース一期生として卒業
コールドワークでの製作を選択
2003 真備町にガラス工房を設立(有限会社GALACO)
作家のアート作品の仕上げ業務、板ガラスの特殊加工業務などを行う
2013 自身の製作も始める
2018 西日本豪雨にて工房が水没
2019 工房再建完了、作家活動も再開



私の得意とする技法はコールドワークと呼ばれ、主にガラスの研磨加工による製作のことを指します。一般的にガラスは加工しにくい素材ですが、始めに接着により特別に分厚い板ガラスを作成し、それをガラス、石材用の道具を用いて研磨加工する事で造形をしていきます。近年は彫刻だけでなく、テーブルやランプなどの実用的なものの製作を始めました。

また、電気炉による溶着技術も確立しつつあり、また新しい分野へ向けての製作を試みています。ガラスの最大の特徴でもある透過、屈折、反射を活かせるような造形を模索しています。



森の芸術祭 PICK UP PROGRAM

この展示は「森の芸術祭 晴れの国・岡山」の連携事業
[PICK UP PROGRAM]として認定を受け開催します。



Fairywood Glass Museum

妖精の森ガラス美術館

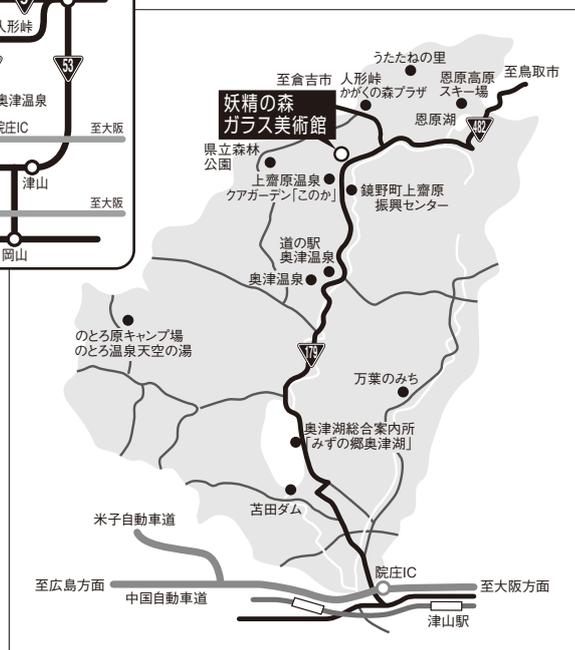
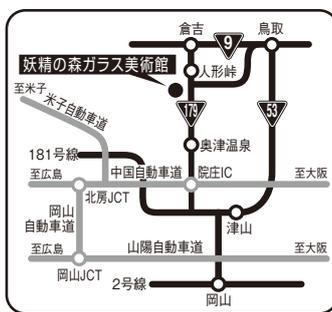
【開館】9:30～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】火曜日

【入館料】

	個人	団体
一般	500円	400円
高校生	400円	300円
小学・中学生	300円	200円

●団体は20名以上
●小学生未満無料



岡山県苫田郡鏡野町上齋原666-5
TEL 0868-44-7888 FAX 0868-44-7889
<https://fairywood.jp/>

